



理工学専攻都市基盤工学コースの大学院生が 2024 年度地盤工学会九州支部優良学生賞を受賞

【概要】

理工学専攻都市基盤工学コース 博士前期課程 1 年の福島 美晴さんが、2025 年 4 月 24 日（木）に開催された地盤工学会九州支部総会において、2024 年度地盤工学会九州支部優良学生賞を受賞しました。

【本文】

理工学専攻都市基盤工学コース 博士前期課程 1 年の福島 美晴さん（主指導教員：日野 剛徳 教授）が、2025 年 4 月 24 日に開催された地盤工学会九州支部総会において、2024 年度地盤工学会九州支部優良学生賞を授与されました。

同賞は、地盤工学会九州支部管内に拠点を置く大学院・大学・工業高等専門学校に在籍する地盤工学を主専攻とする学生の中から、研究活動において優秀と認められる学生を表彰するものです。この賞は、同学生の積極的な学習ならびに研究・技術開発などを奨励するとともに、若い世代の地盤工学会に対する理解を深め、会員の増加や支部活動の活性化を図ることを目的として設立されました。対象となるのは、学生が主体的に実施した地盤工学における学習ならびに研究・技術開発などの業績です。

福島さんは、学部 4 年次の卒業研究で取り組んだテーマ「攪拌時間の違いを伴う固化材スラリーが改良土の強度発現特性に及ぼす影響に関する研究」の成果について高く評価されました。深層混合処理工法では混合不良や固化不全が頻発しており、その要因の一つに同工法に用いられる固化材と水の攪拌からなるスラリーの性質が挙げられます。異なる攪拌時間を伴う固化材スラリーを用いて改良土を作製し、その強度発現特性について研究を行いました。今後の深層混合処理工法における品質の向上や施工性の向上への寄与が期待されます。

受賞の対象になった上記の研究テーマは博士前期課程でも持続・発展され、第一線の現場技術者の喫緊の課題解決に資することを目指して研究が続けられます。



授与された賞状



受賞した福島さん（左）と日野教授（右）